

# 千成ふれあって元気の会「日々の健康と安全を考える」への参加

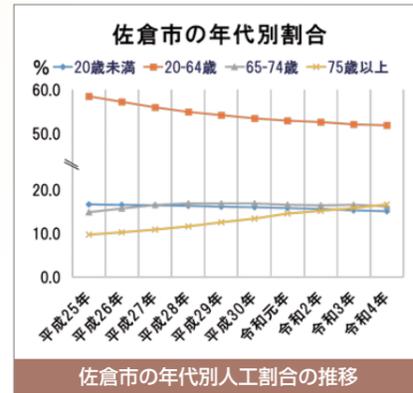
リハビリテーション部 技師長補佐 小川 明宏

高齢化率の全国平均は約29%で、佐倉市では約32%と全国平均よりも高い状況です。しかしながら加齢は抗うことができない生理現象です。そのため老化を恐れることなく、人々が安心して住み慣れた地域で元気に過ごすための環境づくりや障害・介護予防などの地域での活動が重要です。

地域活動として、1月7日に佐倉地区医療振興会主催で佐倉市千成地区自治会館にて、『千成ふれあって元気の会 ～日々の健康と安全を考える～』が開催されました。本会には西田三十五市長も来場されご挨拶を賜りました。佐倉病院としては、今回のテーマの1つである「健康」について、院長補佐・整形外科中川晃一教授司会のもと、吉田友英病院長による「病院紹介」から始まり、リハビリテーション部部長・整形外科中島新准教授による「整形外科で診る高齢者の病気とロコモティブシンドローム」の講演とロコモ度（運動器障害の程度）チェック、そしてげんきな体づくりのポイントとして「座ってできる運動」について、私よりお話と実演をさせて頂きました。参加された方々は真剣に講演を聴き、楽しそうに体を動かされておりました。

今回参加させていただき、病院の外でも地域の方々の健康を支えることの大切さを再認識することができました。そのため、佐倉病院リハビリテーション部では地域の皆様の健康を支える目的に、地域に出向いて行う介護予防活動なども更に積極的に実施していきたいと考えております。

地域新聞にも取り上げて頂きました！



# SAKURA DAYORI さくらだより

～患者さんと病院を結ぶ情報誌～

VOL.55 SUMMER 2023

東邦大学医療センター佐倉病院

## 基本理念

- 質の高い医療を安全に提供する病院
- 地域に貢献する病院
- 人間愛を共有する病院
- 楽しく明るくチャレンジする病院
- 良き医療人を育成する病院

## 患者の権利

- 質の高い公正な医療が受けられます
- 個人の尊厳が守られます
- 個人のプライバシーが保障されます
- 必要な医療情報の説明が受けられます
- セカンドオピニオンが保障されています
- 医療行為について自己選択ができます



## 地域医療と文科省 「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」

教育担当副院長（病理診断科） 蛭田 啓之



本学医学部には千葉県の修学資金貸付制度を利用する学生が毎年5名～8名ほど在籍していますが、9年目を迎え、現時点で55名を数えます。コロナ禍中にはWeb開催となりましたが、毎年夏休み中に1日～1泊2日の研修会を当院で行ってきました。昨年度末には優秀な1期生が初期研修を終えて院内助教（専攻医）となり、地域医療にも貢献してくれることが期待されています。

そして、令和4年度文部科学省補助事業「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」に採択された千葉大学の連携校として、今後の高齢化社会・医療ニーズの多様化・地域医療体制の維持に対応可能な人材育成について取り組むことになりました。昨年10月から事業がスタートし、今年度から本格的に実績を積むこととなります。東邦大学の教育理念に基づいた千葉県の医療の発展に資する人材を育成し、地域医療への高い情熱と好奇心を涵養して、総合力・適応力・教育力を醸成する「地域志向型医療人材を養成するプログラム」です。その1つとして「地域医療学（千葉）」という選択講座を立ち上げ、講義・演習のほか地域の医療関係機関・施設で実習を行う計画となっています。今年の1年次生は佐倉病院で実習を行い、次年度以降、2年次には千葉県の医療行政の現状と体験学習、3年次には千葉県の災害医療

の現状と行政での体験学習など、地域関係機関の皆様にも多大なご協力を頂いて行っていくこととなります。他に人間性教育／全人的医療人教育の一環として、佐倉市内の高齢者施設が介護体験実習を受け入れて下さり、本学健康科学部・看護学部をはじめとした他学部との多職種専門職連携学習・チーム医療演習などがプログラムされています。

医療人材（財）育成のためには、地域の皆様に様々な場面でこれまで以上にご理解・ご協力を頂く必要があります。今後の地域医療向上のため、何卒よろしくお願ひ申し上げます。なお、医学部HPに本事業の活動内容に関するサイトがあり、千葉大学へのリンクも貼ってあります。一度覗いて頂けますと幸いです。

「東邦大学地域志向型医療人材養成プログラム」  
[https://www.lab.toho-u.ac.jp/med/pc\\_chiiki/](https://www.lab.toho-u.ac.jp/med/pc_chiiki/)



## 外来受診のご案内

- 開扉時間 8:10
- 受付時間 初診 8:30～11:00  
再診 8:30～11:00  
※一部診療科では午後の受付となる場合があります
- 休診日 日曜日・祝日・第3土曜  
創立記念日（6月10日）  
年末年始（12月29日～1月3日）
- 代表電話番号 043-462-8811  
予約変更専用 043-462-0489（平日14時～16時）
- 健康保険証（原本）、その他の公費負担受給者証（原本）を必ずご持参ください。
- 各科外来担当医はホームページをご覧ください。  
<https://www.sakura.med.toho-u.ac.jp/sinryoka/index.html>


## 2023年度 診療体制変更（祝日・土曜）について

以下の祝日は平日診療体制、土曜日は休診とさせていただきます。

祝日	土曜
2023年 7月17日(月)	2023年 7月22日(土)
2023年 9月18日(月)	2023年 9月 2日(土)
2023年 10月 9日(月)	2023年 10月14日(土)
2023年 11月23日(木)	2023年 11月 4日(土)
2024年 1月 8日(月)	2024年 1月27日(土)

### 平日診療体制

※平日同様に外来・手術等をしております。

### 休診

※救急のご依頼はお問い合わせください。

編集・発行：東邦大学医療センター佐倉病院 広報委員会  
 〒285-8741 佐倉市下志津564-1  
 TEL.043-462-8811（代表）  
 発行日：2023年7月【年4回（1・4・7・10月）発行】  
 URL：<https://www.sakura.med.toho-u.ac.jp>



## 予期せぬ急変を未然に防ぐ活動に取り組んでいます

急性・重症患者看護専門看護師 原田 洋平

2021年度に急性・重症患者看護専門看護師の資格を取得し、現在、ICU・HCU（集中治療室・高度治療室）で勤務しております。専門看護師は、複雑で解決困難な看護問題を持つ患者さん、ご家族及び集団に対して質の高い看護ケアを効率よく提供すること、保健医療福祉の発展、看護学の向上を目的としています。資格取得後は、「実践」「相談」「調整」「倫理調整」「教育」「研究」の6つの役割を担って活動します。

私が取得しました「急性・重症患者看護」は、例えば消化器疾患、循環器疾患のように1つの領域に特化するのではなく、幅広い領域に対応します。当院は急性期病院なので、患者さん誰もが急変・重症化のリスクがあります。それらを予防するという視点から、誰もが「急性・重症患者看護」の対象であると考えております。

急変対策には、エマージェンシーコール（緊急コール）がありますが、これは急変した際に、診療科、職種に関わらず人員を参集し緊急治療に当たる体制です。それとは別に急変前に予兆を察知し、急変を予防しようとする試みが全国で始まっています。

急変する患者さんは、数時間前に何らかの予兆を示していることが国内外の研究で明らかとなっています。そこで、当院でもその急変前の予兆に対応するために、急変前対応システム（RRS：Rapid Response System）を構築すべく、重症ケアに特化したチームを結成し活動の準備を進めています。急変後の対応はもちろんですが、予期せぬ急変を未然に防ぐための活動にも力を入れ、安心した入院生活を送っていただけるよう活動して参ります。



## 放射線技師による静脈確保が始まります

診療放射線技師 中澤 博行

「タスクシフト」という言葉があります。これは、業務の一部を他のスタッフに移管する仕組みを指します。

医師が担っている業務の一部を他の医療従事者が行うことで、医師の長時間労働を解消し、業務の負担を減らすことがタスクシフトの目的です。

全国の診療放射線技師が医師業務を担うため、昨年度より随時研修を受けております。

当院ではこれまでに実施された実技研修で部員の約80%の技師が受講を終了しております。

修了証書が送付されるまで約2か月あまり時間を要しますが、すでに20人が厚生労働省、放射線技師会が発行する令和3年厚生労働省告示第273号研修の修了証書を授与されています。

5月からは技師が静脈確保を施行する方向で動いているために、修了証書を授与した技師は10月から実技研修を行っており、核医学、CT、MRIにおいて静脈路の確保、薬剤注入、抜針・止血までの一連の行為を医師の指導のもとで行っています。その実技研修期間では施設により技師が1人の患者に穿刺する回数や穿刺部位、穿刺針の太さなどの取り決めが必要になって

くると思いますが、当院では手関節から先の末梢は穿刺しないことや、1度失敗したら医師に委ねること、また、24Gが必要そうな細い血管には穿刺しないことなどを決めて行っています。また本格的に始動する前に静脈確保後の電子カルテへの記載事項や、RISに静脈確保した技師名の記録の方法などの運用を検討しています。（3月30日現在）



## 新任のご紹介

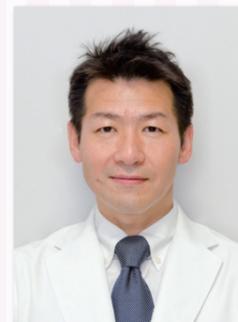
新任 眼科 准教授 やぎ ふみこ 八木 文彦



2023年4月より東邦大学眼科学講座（佐倉）の診療部長を拝命致しました八木文彦と申します。私は1994年に東邦大学を卒業し、東邦大学医学部附属佐倉病院眼科学研究室（当時）に入局致しました。12年間佐倉で勉強させていただきましたが、2006年に東邦大学医療センター大橋病院に異動となり、今回17年ぶりに佐倉病院に戻って参りました。私は埼玉県出身ですが、佐倉病院に育てていただき、この佐倉の地は第二の故郷とっております。私に与えられた使命は一人でも多くの患者様に満足していただけるよう、治せる病気は確実に治す。また、現在治療法がない病気であっても、最新の情報を提供し、現状でできる限りのことをさせていただくことと考えております。患者様には佐倉病院の眼科を受診して良かったと思っていただけるように、努力してまいります所存でございます。そして、私が佐倉病院に育てていただいたように、将来日本のみならず世界の眼科医療を牽引するような眼科医を育てていくことが佐倉病院への御恩返しになると考えております。

佐倉病院の眼科は1991年の開設以来、難治性網膜硝子体疾患に対する治療に力を入れておりますが、現在も最先端の硝子体手術システムや薬剤を用いて治療に当たっております。これからも皆様の眼の健康を守るためご満足頂けるように治療に邁進してまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

新任 消化器外科 准教授 つちや まさる 土屋 勝



2023年4月に大森病院から佐倉病院消化器外科に移籍いたしました土屋勝と申します。私は1993年に東邦大学を卒業後、旧第2外科に入局しました。佐倉病院開院後の1998年には佐倉で半年間研修を行っており、久しぶりに佐倉病院の地を踏みました。病棟や手術室など施設の増設により院内で迷子になる事もありますが、とても新鮮な毎日を過ごしております。私はこれまで肝胆膵外科を中心に診療を行ってきました。特に肝腫瘍に対する腹腔鏡下手術は、日本における草分け的存在である、大森病院の金子弘真前教授や大塚由一郎教授から指導を受けてきました。また肝切除のみならず、脾頭十二指腸切除術、脾全摘術、胆管癌手術などの胆膵疾患の高難度手術から低侵襲手術の腹腔鏡下手術まで幅広く手掛けてきました。今後は肥満外科や胃・大腸外科と共に、肝胆膵外科治療が地域に根付き、腹腔鏡下手術やロボット支援による低侵襲手術を順次導入できるよう精進していきたいと思っております。一方、胆膵領域の疾患は黄疸などの症状で発症する事が多く、診断された時点で遠隔転移や周囲臓器への浸潤により手術ができないと判断されることも少なくありません。残念ながら手術の適応にならない患者様にも抗癌剤治療を含めた集学的治療を行いながらQOLの改善、維持に繋がるような医療を提供したいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。